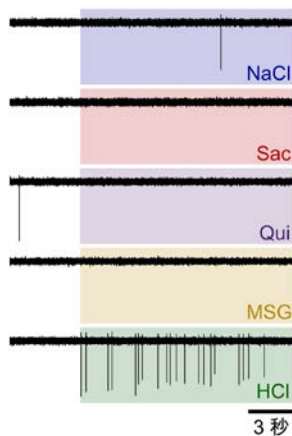
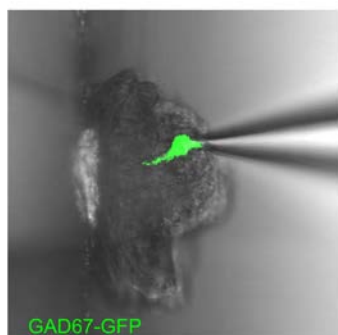


口腔・全身の健康維持・増進に向けて
味覚を介したアプローチ

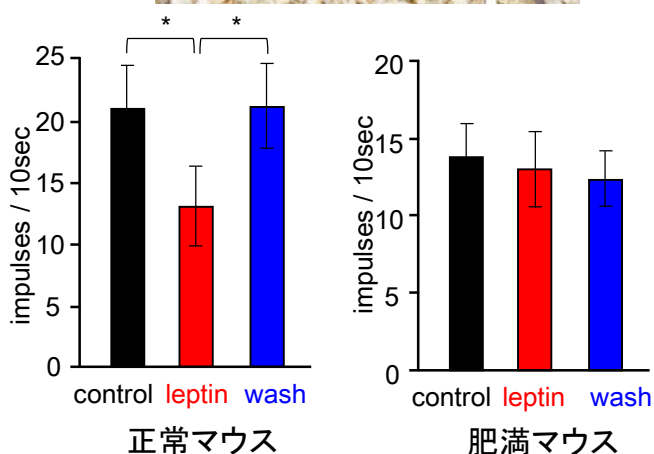


味覚は口の中に入れた飲食物の価値(栄養・危険性)を判断するために重要な感覚です。味のシグナルは中枢へと伝えられ、快不快の情動や顎顔面応答、唾液・消化液・ホルモン分泌を引き起こし、円滑な食行動の基盤となります。また、味のセンサーは口腔内にとどまらず中枢や消化管など全身に存在することが分かってきています。当分野では、これら様々な味覚の機能を追及し、口腔・全身の健康維持・増進に向けて取り組みます。

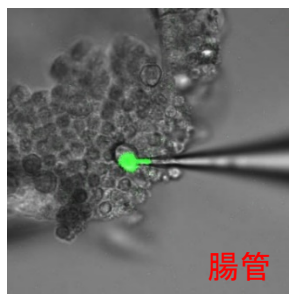
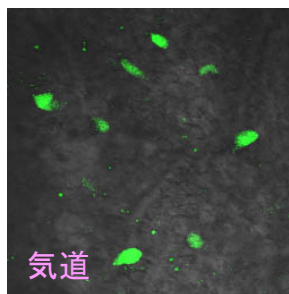
味細胞の応答記録



肥満による味覚感受性調節機構の変化



全身における味覚関連遺伝子の発現



連絡先

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 口腔生理学 (吉田竜介)
〒700-8525 岡山市北区鹿田町2-5-1 歯学部棟9階
Tel: 086-235-6640 Fax: 086-235-6644
E-mail: yoshida.ryusuke@okayama-u.ac.jp